



弟子屈の 経済は 今

町の基幹産業の一つである観光
今、観光を取り巻く状況が大きく揺らぎ
厳しい局面を迎えています
観光の疲弊(ひへい)は町の経済の疲弊
経済への波及効果が大きい観光だからこそ
今こそ立ち上がり
力を合わせて
盛り上げていかなければなりません

震災後 観光業界が受けた 大きな打撃

3月11日に東北・関東地方を襲った「東日本大震災」。1千年に1度ともいわれた未曾有の大地震は、被災地に大きな爪痕を残し、被災者の皆さんは今もなお苦しい生活を強いられています。

震災はわたしたちの生活にさまざまな影響を及ぼしましたが、経済や産業への影響、弟子屈町という観光への影響もその一つです。

震災以降の弟子屈町の観光の状況を、代表的な観光名所である摩周湖と硫黄山の入り込み客数で見えます。今年4・5月の摩周湖の入り込み客数は4万8千897人。平成22年の4・5月は7万4千826人です。

ら、今年
は昨年
の65%
の入り
込み客
とどま
っています。
硫黄山は
2万31
人で、昨
年の2万
4千15
2人に対



観光の落ち込みは経済の落ち込み

あり、若
千持ち直
していま
す。です
が、修学
旅行シー
ズが終
わった後
再び宿泊
者数が減
少するこ
とが心配
されます。

観光は、さまざまな業種や分野への経済波及効果が大きい産業です。町外から訪れた観光客に町内でお金を使っていたことで、まず町内経済が潤います。使うお金としては、宿泊費はもとより食事代やお土産代、さまざまな体験メニュー(カーヌーや自然散策、牧場体験など)、車やバイクなどの燃料代などがあり、観光に関わる消費先が多岐にわたることが分かります。それだけたくさん業種が恩恵を受けるといえることです。さらに、そのお金を町内

83%の入り込みと、いずれも大きく落ち込んでいることが分かります。

また、外国人観光客の宿泊が、昨年3月の616人に対し、今年の3月は201人と昨年の約33%。つまり、前年度比67%減という状況です。平成22年度全体では、前年度比10%増であるにもかかわらずです。

(下の表①参照)

震災以降、観光客が減っている原因としては、日本人については観光を含めた娯楽を自粛する傾向にあること、外国人については福島第一原子力発電所の事故による放射能を懸念していると考えられます。

ゴールデンウィークは、近隣の旅行者が短期で訪れたことで、ほぼ前年度並みの宿泊者数を確保することができました。5月以降は、町などが行ってきた道央圏の中学校を中心とした修学旅行誘致の効果も

それでも今 観光に力を入れる 理由

下の表②は、平成17年度から22年度にかけての町内での宿泊者数の推移を表したものです。

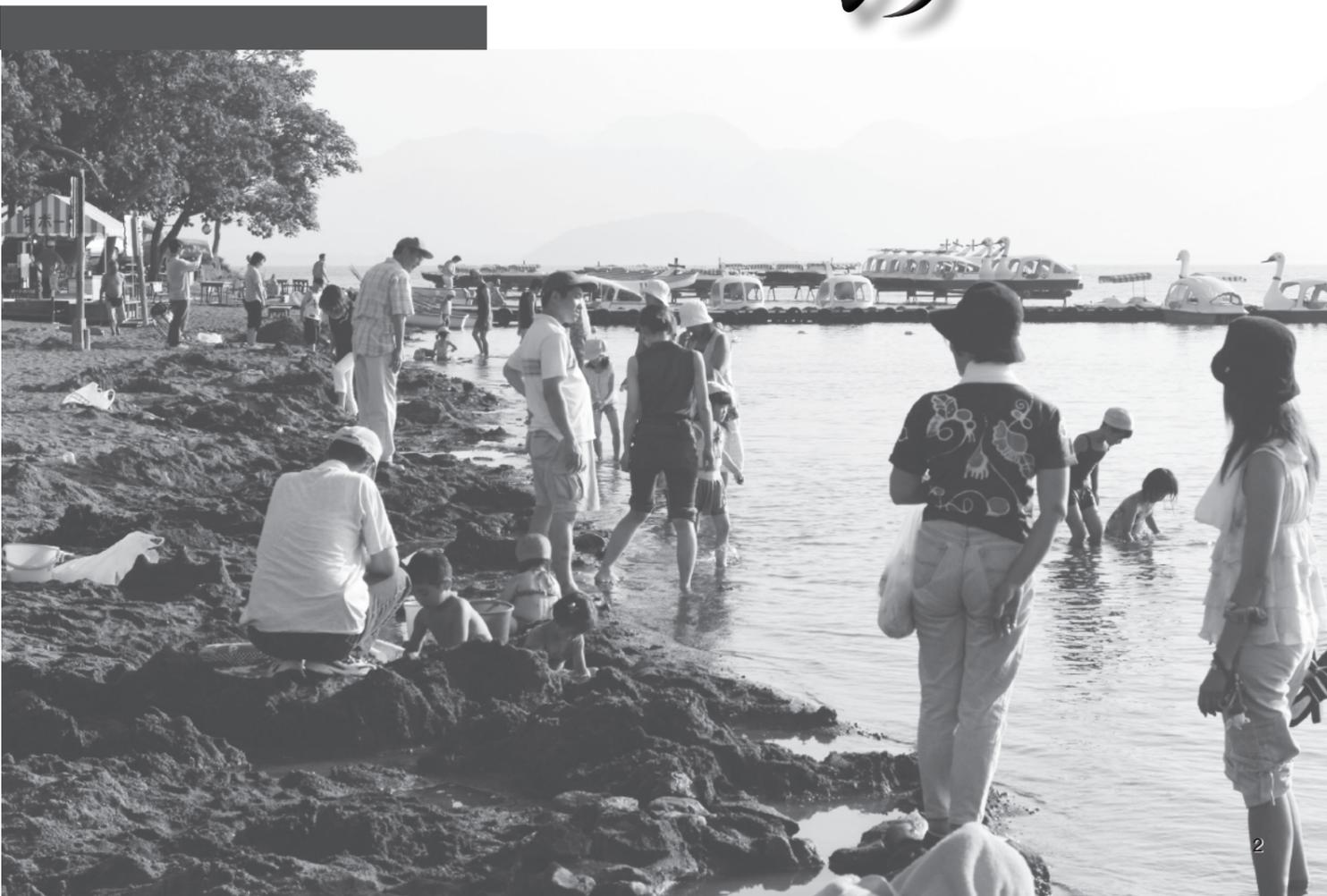
平成22年度は、前年度からは0.5%の減少ですが、17年度と比較すると40万6千271人から27万4千100人と、5年前に比べて約67.5%の宿泊者数。つまり、32.5%減という、大幅な落ち込みとなっています。観光が基幹産業といいますが、ここ数年、厳しい局面に立たされていることが分かります。現状を何とか打破し、観光の振興へとつなげていかなければなりません。

表① 月別外国人宿泊客数(上段:平成22年度/中段:平成21年度/下段:前年対比)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
74	620	303	1,564	1,356	787	516	190	101	296	2,058	201	8,066
63	863	457	997	1,335	448	505	184	49	252	1,536	616	7,305
117.46%	74.84%	66.30%	156.87%	101.57%	175.67%	102.18%	103.26%	206.12%	117.46%	133.98%	32.63%	110.42%

表② 町内の宿泊客数の推移

年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
宿泊者数(人)	406,271	387,999	355,582	356,658	275,447	274,100
前年度比(%)	-	95.5	91.6	100.3	77.2	99.5



『観光のまち』の町民として 『おもてなし』の心で お客さまをお迎えしよう



弟子屈町長
徳永 哲雄

魅力ある人が 魅力ある地域をつくる

わが町の『観光』は今、転換期を迎えているといっても過言ではありません。

現在、東日本大震災の影響を受け、観光が大きなダメージを受けていますが、震災の影響を抜きにしても、何もしなくても観光客が押し寄せた時代はとうに過ぎ去りました。こうした現況を打破し、地域が一体となって魅力あるまちづくり

を進めるべく、2008年2月には「誰もが自慢し、誰もが誇れる町づくり」をスローガンに、てしかがえこまち推進協議会が設立。観光を機軸とした上で、さまざまな産業を包括して総合産業化させること、町の自立を目指して、数多くの活動を行ってきました。地域の魅力を高めることでブランド力が上がり、町外からのお客さまに町内経済を潤してもらうことができます。

地域の魅力づくりは、皆さんにもできることです。観光客にとつての大きな魅力の一つは、訪れた先の「人」や「雰囲気」だと思います。観光地の人間としてお客さまを迎える私たちは、おもてなしの心を育んでいきましょう。もちろん、観光事業者などが率先して行うべきではありませんが、皆さん一人一人がおもてなしの心でお客さまをお迎えできたら、地域の素晴らしい魅力になります。「おもてなしの心」といっても、難しく考える必要はなく、自分のできることでいいのです。町並みからごみをなくし、花を飾って美しくする。困っている人がいたら道案内を



基幹産業である観光の活性化が最大の課題

経済活性化のため 町が行っている さまざまな対策

こうした現状を受けて、町ではさまざまな対策を行っています。

▼修学旅行の誘致

従来、東北地方へ修学旅行に行っていた道央圏の中学校は、震災の影響により旅行先の変更を余儀なくされています。町などでは3月末からこうした中学校を訪問し、修学旅行の誘致を実施。結果、新規に弟子屈町を訪れた中学校は34校、延べ宿泊者数は5千933人となりました。



修学旅行生を積極的に誘致

するため、今年度も誘致活動を行っていきます。

▼首都圏の企業訪問

弟子屈ふる里会(東京)会員に委託して、首都圏の企業訪問を実施。企業誘致や宿泊誘致を行います。

▼農業担い手対策

農業後継者の育成や、畑作での新作物試験栽培など、将来の魅力ある地域産業育成のための取り組みを行います。

▼経済対策本部の設置

みんな力で 力を合わせて 町の経済を元気に

観光の振興を中心とした町の経済の活性化には、皆さんの力が重要です。まちづくりは行政だけで行うものではなく、ここに住む皆さんとともに行うものだからです。

今月は、新しい道の駅のオープン(6ページ参照)、弟子屈2days(6ページ参照)による観光交通実証運行のスタート、生まれ変わった夏まつりの開催(7ページ参照)と、観光や経済の活性化につながるイベントが目白押しです。これらのイベントへの参加はもちろん、観光客をお迎えする立場として、弟子屈町の魅力をアップさせることを心掛けてみませんか。

して、皆さんが薦めする町内のお店を紹介してあげてほしいのです。

地域の観光資源を 地域の方も活用して

新しい道の駅が、いよいよ7月16日(土)にオープンします。町外の方へPRするためにも、皆さんにはぜひ、訪れてみてほしいと思います。私も含め町の職員も、さまざまな会議などで弟子屈町をPRしていきます。

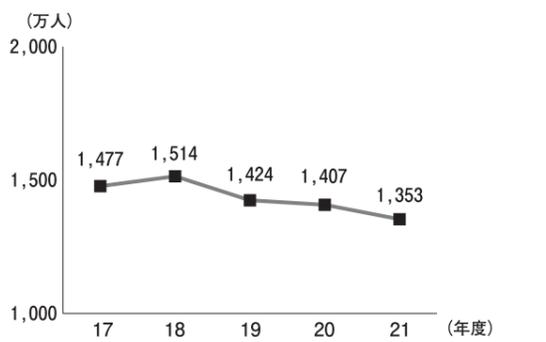
皆さんも、友人や知人、親戚の方などに弟子屈町を宣伝してください。今年度も町民宿泊促進支援事業

を行っています。左記参照。普段なかなか泊まることのない町内の宿泊施設に泊まるチャンスです。今年度は、町民の方が一緒であれば、町外のご親戚も助成を受けられます。ぜひお誘いして、町内の新たな魅力を再発見してみませんか。

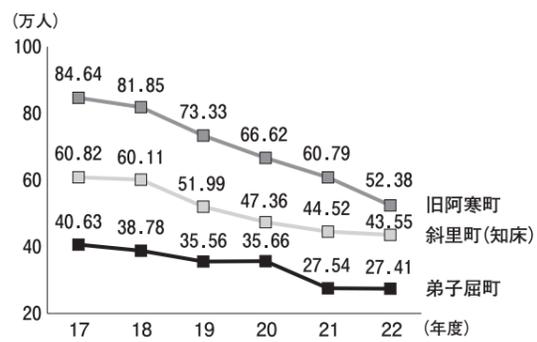
また、プレミアム商品券を夏にも販売する予定です。こちらも活用して、町内の消費に努めていただきたいと思っています。

厳しい状況だからこそ、皆さんが一丸となって現状打破に努めることに意義があります。活力ある未来のために、一緒に頑張っていきましょう。

グラフ① 道内宿泊者数の推移



グラフ② 弟子屈町と近隣観光地の宿泊者数の推移



観光振興の呼び水
町民宿泊促進支援事業

町内での宿泊に2,000円を助成

昨年からはまった町民宿泊支援事業(事業に参加している町内宿泊施設への宿泊に1人2,000円を助成)について、今年度は町民の方やふる里会会員だけでなく、町民の方やふる里会会員と一緒に宿泊される町外の親戚の方なども利用できるよう、対象を拡大しています。

▶対象

- ▷個人/町民の方(町に住居登録がある方)
弟子屈ふる里会会員・札幌弟子屈会会員
町民の方やふる里会会員と一緒に宿泊する町外の親戚
※町外の友人や知人は、助成の対象となりません。
- ▷団体/町内の会社や事業所、事務局が町内にあるサークル(自治会や老人会など)
クラス会
※どちらも、宿泊される方の中に町民の方やふる里会会員が含まれることが必要です

助成は、皆さんから納めていただいた税金で運営しているため、対象を上記のとおり限定しています。

次の施設でも利用可能となりました

▶弟子屈地区/スローライフ ☎482-6036

□問い合わせ先/役場観光商工課観光商工係 ☎482-2940 (課直通)まで。